
2018年度 事業報告書

より良い 2019 年度を創りだすため



特定非営利活動法人
今治 NPO サポートセンター

目 次

I	2018 年度事業報告	2
1.	今治市民活動センター管理運営事業	2
2.	その他の事業	17
3.	会議に関する事項について	20
II	2018 年度決算報告	21
III	2019 年度事業及び予算	26
1.	2019 年度事業計画書	26
2.	2019 年度事業予算書	32

II 2018 年度事業報告

1. 今治市民活動センター管理運営事業

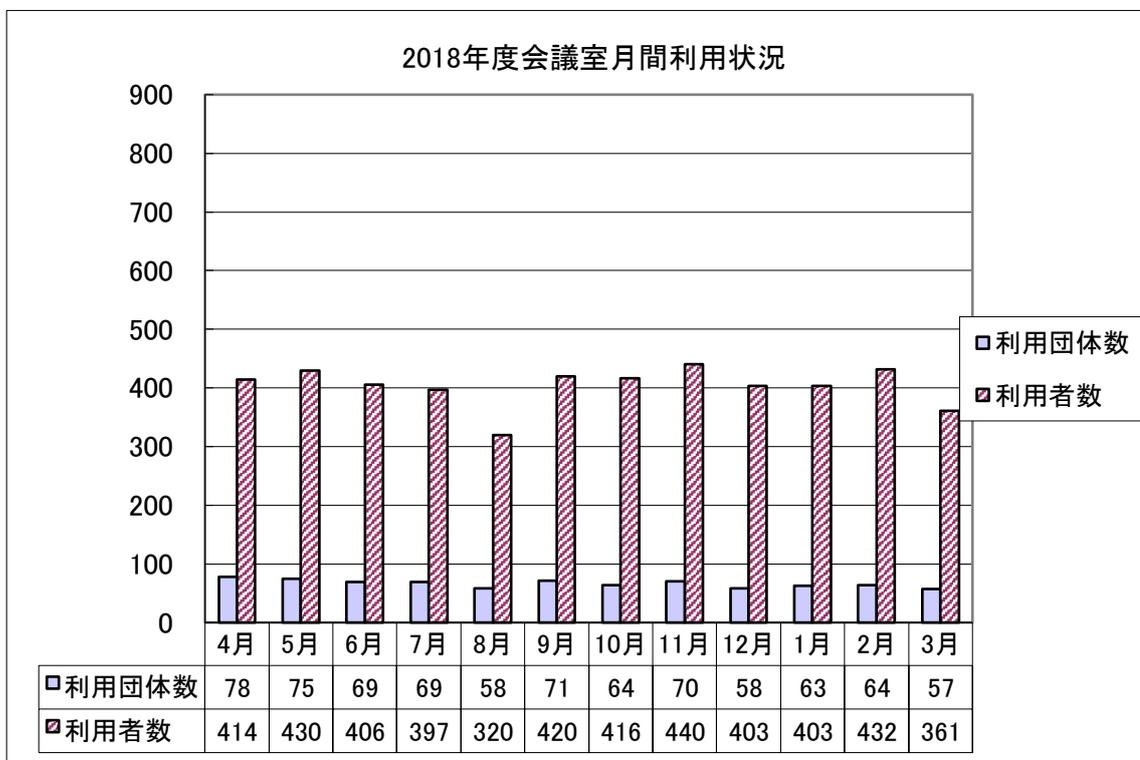
(1) 施設の運営業務（使用調整、受付・案内業務など）

内容	<p>通年事業（月から土曜日 10 時～19 時開館） （事前申込みがあれば、日曜日、祝日 10 時～18 時開館。平日 22 時まで開館）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸会議室の無料提供（登録団体に限る） ・機材の貸出 ・情報交流スペースでのインターネット回線の利用や書籍の貸出 ・貸事務所の効率的な運営
対象	センター登録者・市民ボランティア・一般
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフは使用者と積極的にコミュニケーションをはかり、意見の収集に努めた。 ・事務所入館団体募集を広報、機関紙等で行い、入館を呼びかけた。
結果 課題	<p>会議室の利用者は 796 団体・4,842 人となった（H29 年度；750 団体・4,046 人）。使用人数、使用内容により大会議室、中会議室の使用を使い分けている団体が多く、会議室の機能を十分に理解し、ご使用いただいている。交流スペースで使うことができる Wi-Fi 機能、作業スペースや作業資材の貸し出しなどは好評で、多くの方にご使用いただいた。会議の合間や待ち合わせなどの時間を利用し、書籍を読んだり、新聞記事に目を通したりする来館者も見られた。湯茶の準備、無料で使える備品、予約システムの簡便性など、引き続き、使用者の目線に立った運営を行いたい。</p> <p>今年度の登録は新たに 3 団体あり、使用にあたっての目的等を十分に伺い、市民活動の実践や発展を目指したものであるか判断した。会議室の使用については、各団体により、頻度は様々である。施設の存在の認知度は年を追うごとに高まっている。今後より一層、地域や団体、個人ボランティアへの使用を促したい。貸し事務室は、3 月末現在で 10 団体が入館しており、内 1 団体が 2 部屋を使用している状況である。新たに使用を希望する団体もおり、団体の事務室を持つメリット等を伝えたいと感じている。</p> <p>センターの使用について、より正確な使用数値を把握するため、会議室及び事務室の利用者数、使用者の性別・年齢・居住地・来訪手段などを把握する書類のご提出をいただいている。今年度は講座や交流会への参加、新規登録団体の使用等が増え、利用者数が前年度より増加した。利便性の高い施設であることを既存の登録団体に改めて説明したり、新規の登録団体を増やしたりする等の取り組みを行い、引き続き、使用増加を目指したい。</p> <p>■使用者の声■</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機材が借りられるから便利だ。 ・今治市の中心地にあり、集まりやすい。・アクセスがいい。 ・施設は老朽化しているが、絨毯が新しくなるなど、心地よい空間になっている。 ・たくさんの情報が集まってきているので助かる。 ・貸事務所機能は独自がある。 ・台所があり、便利である。 ・低コストで借りられる。 ・使用者が集まる座談会があり、意見交換ができています。 ・団体の希望を取り入れた運営をしていただいている。（障がいを持つ方の職場体験）

2018年度センター利用状況詳細

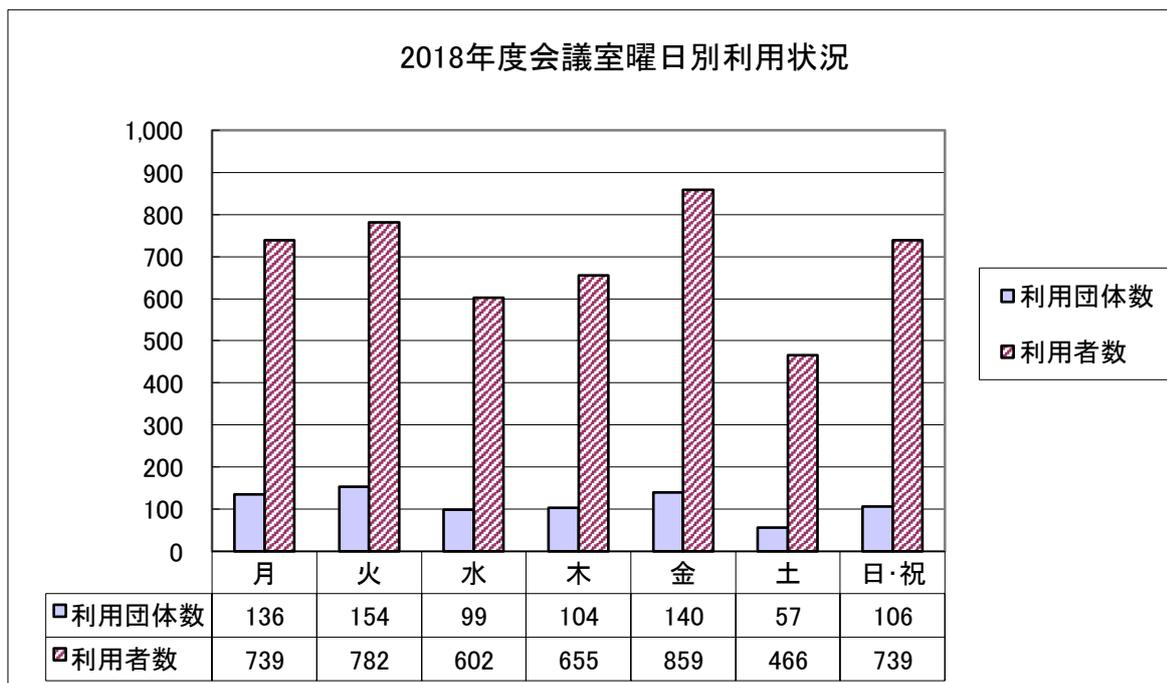
【センター利用状況(月間)】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用団体数	78	75	69	69	58	71	64	70	58	63	64	57	796
利用者数	414	430	406	397	320	420	416	440	403	403	432	361	4,842



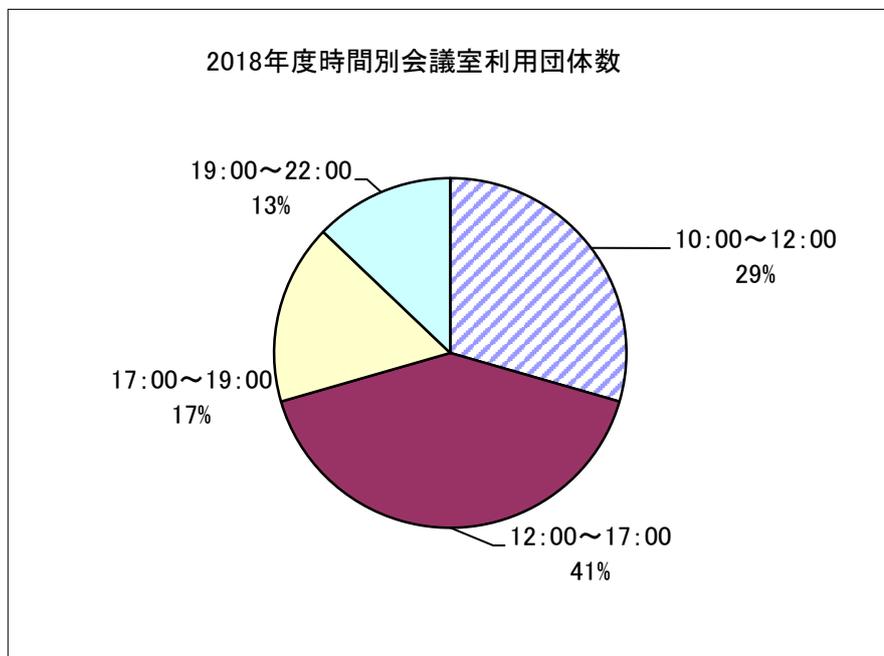
【センター利用状況(曜日別)】

	月	火	水	木	金	土	日・祝	合計
利用団体数	136	154	99	104	140	57	106	796
利用者数	739	782	602	655	859	466	739	4,842



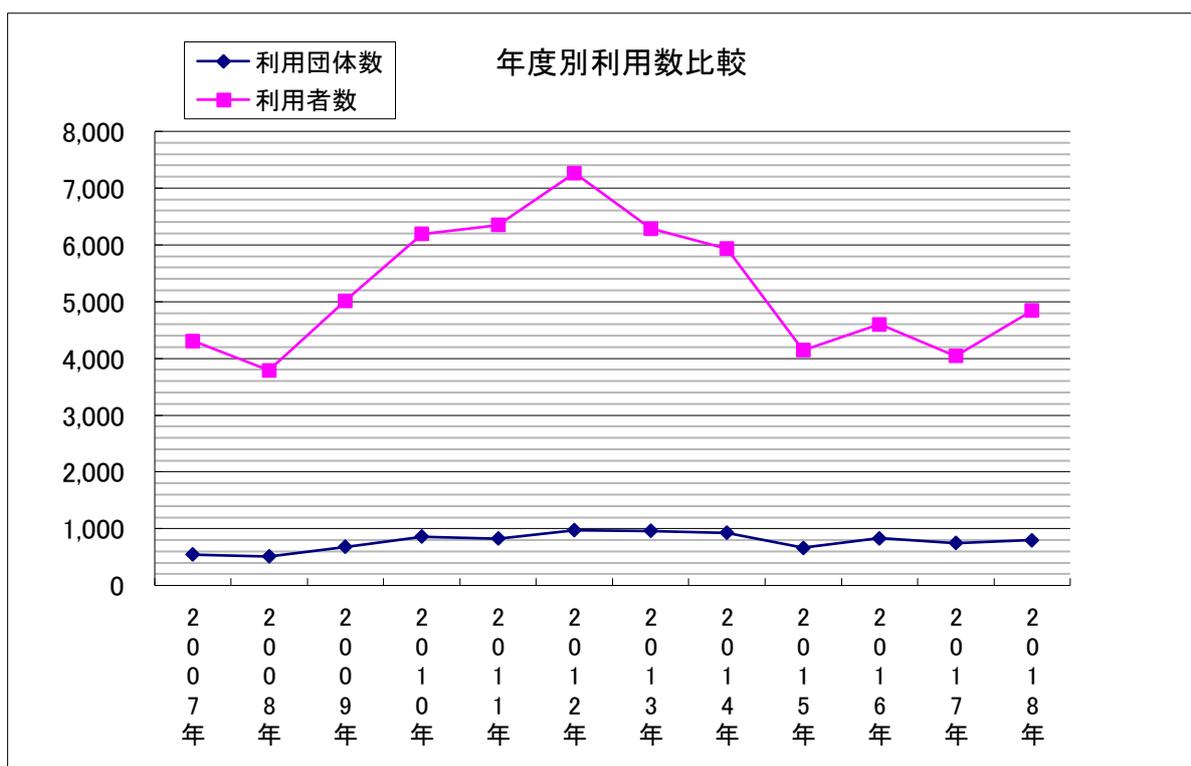
【時間別会議室利用団体数】

利用団体数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10:00～12:00	23	19	14	19	15	22	16	21	16	21	16	16	218
12:00～17:00	32	35	35	32	27	30	30	30	26	25	30	21	353
17:00～19:00	13	12	8	9	6	9	6	6	6	8	6	6	95
19:00～22:00	10	9	12	9	10	10	12	13	10	9	12	14	130
合計	78	75	69	69	58	71	64	70	58	63	64	57	796



【年度別利用数比較】

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
利用団体数	543	510	682	862	828	972	960	929	663	833	750	796
利用者数	4,306	3,790	5,015	6,191	6,352	7,266	6,290	5,932	4,146	4,598	4,046	4,842



(2) 市民活動基礎講座ならびに市民活動スキルアップ講座の開催業務

<p>内容</p>	<p>市民活動団体、行政がそれぞれの役割を果たしていく「協働」のまちづくりが求められている背景を受け、市民活動団体に協働のパートナーとなる組織力向上の講座を開講した。運営に欠かせない諸事務、運営に必要な資金、情報、人材等の活用をテーマに参加を呼び掛けた。多様な活動分野でそれぞれ活動する市民活動団体が集い、互いの活動内容や課題を情報交換する機会になり有意義だった。</p> <p>第1回 効果的な企画書の書き方 平成30年4月22日(日)10:00～12:30 参加者：6名 市民活動団体にとって、活動・事業を他者に伝える力はとても大切である。補助金・助成金の申請時はもちろん、事業推進の上で協力者や連携先への事業説明の際には、分かりやすい企画書の提案が必要だ。この講座では具体的な企画内容を提案する書類づくりについて学んだ。</p>  <p>★詳細は P.8～9 へ</p> <p>第2回 共感を呼ぶプレゼンテーションの技術 平成30年6月2日(土)13:00～16:00 参加者：6名 補助金・助成金の2次審査にプレゼンテーションを求められることが多い。また団体によってはイベント開催時に地元企業に協力を求める等、他社に伝える機会もある。企画の中身を対面で相手に伝えるプレゼンテーションの技術を学んだ。 ★詳細は P.8～9 へ</p>  <p>第3回 「伝わる」チラシデザインのコツ 平成31年2月2日(日) 13:00～17:00 参加者：15名 活動に「広報」はつきものだ。「伝えたい人」に「伝わる」広報がなかなか難しいとの悩みが聞かれる。今回は広報の手段の一つ「チラシ」づくりについて学んだ。「広報は“コミュニケーション”」という言葉に集約される広報の定義を抑え、受け手を意識したチラシづくりにチャレンジした。</p>  <p>★詳細は P. 10 へ</p> <p>第4回 基礎から学ぶ NPOのための会計講座 平成31年3月24日(日) 10:00～12:00 参加者：3名 NPO法人会計を学びたい参加者対象に、税理士による講義を行った。会計は「団体運営の状況判断」。前半は具体的な簿記について、NPO活動推進時に想定される仕訳を例に実習を行った。後半はNPO法人会計基準などの必要書類について学んだ。</p> 
<p>対象</p>	<p>協働のまちづくり・市民活動に関心のある一般市民</p>
<p>手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活動する多様な団体を対象に、運営上の課題を解決することを目指した具体的なスキルの向上を目指した講座を開催した。 ・広報、会計等の技術的な学びについては、専門家を招聘し、参加団体のニーズに寄り添いながら、講座での学びを団体に持ち帰って活かせるような内容とした。

	<ul style="list-style-type: none"> ・地地域社会の多様な担い手が様々な場面で協働し、それぞれの長所を發揮できるよう、交流の機会となるよう工夫した。
結果 課題	<p>年度初めに「企画」「プレゼンテーション」、年度終わりに「会計」等の事務処理を学ぶなど、団体がタイムリーに学びたい内容の講座を開催した。参加者の多くは活動規模が同じくらいの団体が多く、運営上の悩みは共通していることが多い。講座への参加を通して、互いに日常的に抱える運営課題について情報交換し、解決の糸口を探る機会とすることができた。人材不足、資金不足に課題を感じる団体が多い中、その獲得のためには団体の信頼性向上、適切な情報開示が必要であると感じた。そのため求められる広報、事務処理などのスキル支援を通して、各団体が力をつけ、結果、協働のまちづくりの担い手育成を地道に続けていくことが必要だと感じた。</p>

(3) 機関紙発行とこれに付随する情報収集業務

内容	<p>「夢サラダ」(年間2回)、「得夢サラダ」(年間12回)を編集、発行した。また、一般市民が訪れる場所に「夢サラダ」を設置し、活動経験のない一般市民に情報を届け、市民活動の意義や魅力を伝えた。</p>
対象	市民活動団体・一般
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の担い手を紹介することで、まちの特性を感じることができる誌面とした。 ・ホームページでも情報を伝えた。
結果 課題	<p>市民活動団体106団体、施設・機関35箇所に配布した。配布部数は、毎月冊子2,015部、掲示用350部となった。身近な地域の魅力を伝える誌面構成としたことで、市民活動経験のない方にも読みやすいとの意見をいただいた。掲載内容は、本会のホームページへ掲載し、多様な方へ情報を届けるよう努めた。より多くの方に購読してもらえるよう、誌面の工夫、配布・掲示場所の開拓に取り組んでいきたい。</p>

(4) 市民活動団体相互の交流推進業務

<p>◆使用者協議会</p> <p>平成30年5月7日(月)10:00~11:30 参加者:10名</p> <p>事務室使用団体、会議室使用者と合同でセンター防火避難訓練を行い、その後、今年度のセンター事業の企画内容を説明し、使用者の意見をもらう「使用者協議会」を開催した。使用者は互いの活動を報告し合った。参加団体からは「会員の減少」、それに伴う「役員への負担」等が運営上の課題として出され、横の連携の中で解決できる方策を検討した。若年層、働き盛り世代が活動に関心を持ち、関わるきっかけを相互に構築したいとの思いを共有した。</p>	
---	---

◆使用者交流会

平成 30 年 11 月 17 日（土）10：00～12：30 参加者：18 名

市民活動を支える原動力は“人”。自発的に動く活動家の多くは、「こうすればもっと暮らしやすいまちになる」「困っている人をほっておけない」、そんな思いで動き始めています。一人ではできないことも、多くの“人”が集まると大きな取り組みを成し遂げていくことができます。気になるのは、そんな活動を拓げ、続けるバロメーターである“人”が育っていないこと。異口同音に聞こえてくる現場の共有の悩みです。交流会では、今治市内で活動する 3 つの団体が現状を報告。互いに悩みを打ち明け、団体運営に向けての工夫を意見交換しました。

★詳細は P.11～12 へ



平成 30 年 12 月 13 日（木）11：00～12：00 参加者：16 名

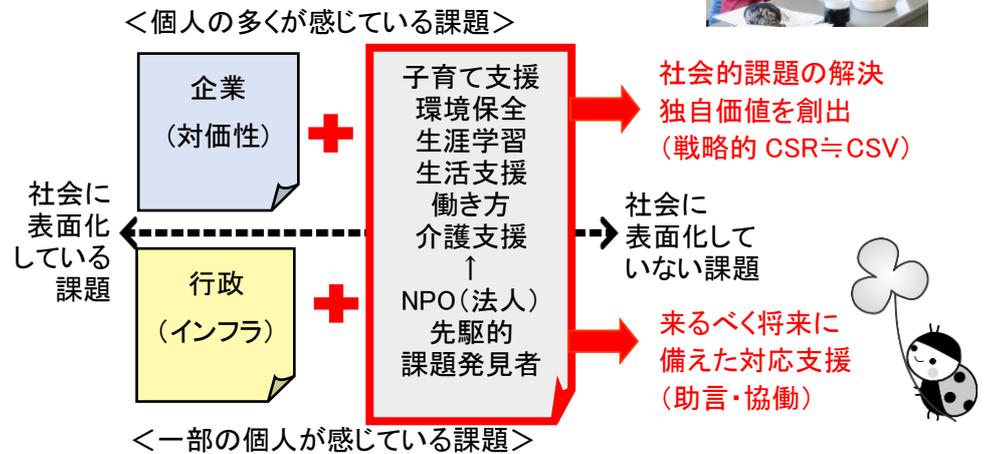
センター使用者によるセンター大掃除を行い、その後、センターの管理運営業務などについて使用者の意見をもらう「使用者協議会」を開催した。備品・設備等については良好に活用できているとの報告があった。使用者同士のコミュニケーションの機会として、このような場と時間を定期的に持つてほしいとの意見が出た。



対象	使用登録団体・市民ボランティア・行政職員
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・今治市内の団体の活動紹介の場とする。 ・多様な活動に触れ、活動の広がりを感じてもらえる取り組みとする。 ・センターの使用に主体的に関わっていただけるよう依頼する機会とした。施設・設備、備品などのハード整備の優先順位、講座などのソフト支援の重要事案などへの共通認識構築の場とする。
結果課題	<p>年度初めの 4 月、年末の 12 月に「使用者協議会」の位置づけで、センター事業を話し合う機会を設けた。会議室や事務所の使い方のルール等の見直し、講座のテーマの検討等、ハード・ソフト両面について、使用者自らが参画しながらセンター運営していけるようにするための協議の場となった。今期より、10 月に「NPO 交流会」を開催した。市民活動団体の多くは運営上の問題を抱えていたり、多様化する地域課題解決へ向けた協力者を求めている。今治市内の市民活動団体同士が情報交換する場を提供し、互いに持続可能な団体運営の共有ヒントを共有すること機会として有意義だった。</p>

「効果的な企画書の書き方」「プレゼンテーションの技術」

思い描く構想を適切な言葉や数字で他者に伝えること！多くの賛同者を得て、まちを変えていこうとする市民活動団体に求められるチカラです。思いを実効性のある書面にしていく「企画書」、そしてそれを対面で伝える「プレゼンテーション」を学ぶ講座を行いました。



社会が必要としている様々なニーズに対して、税金を基にした「公共サービス」が提供されています。しかし、今、行政による制度的なサービスだけでは豊かなまちは創造できなくなっています。ボランティア・NPOは、まだサービスがない・制度になっていない領域に目を向け、そこにある社会的な課題を解決していく、すなわち「新しい公共」事業を創造しながら、社会を変えていく母体であることをまずは確認しました。

「企画とは何でしょう？」改めて、参加者と一緒に考えました。“こうなったらいいのに…”という、現実の隔たり(=課題)について、あるべき姿を想像し、解決に向けてのアプローチを考えていきます。解決の仕方は一つではないはず。色々なアイデアをたくさん出していき…、云わば「企画の種」を団体内部でブレインストーミングしていきましょう。その中に、キラッと光る「企画の原石」があるはずですよ。

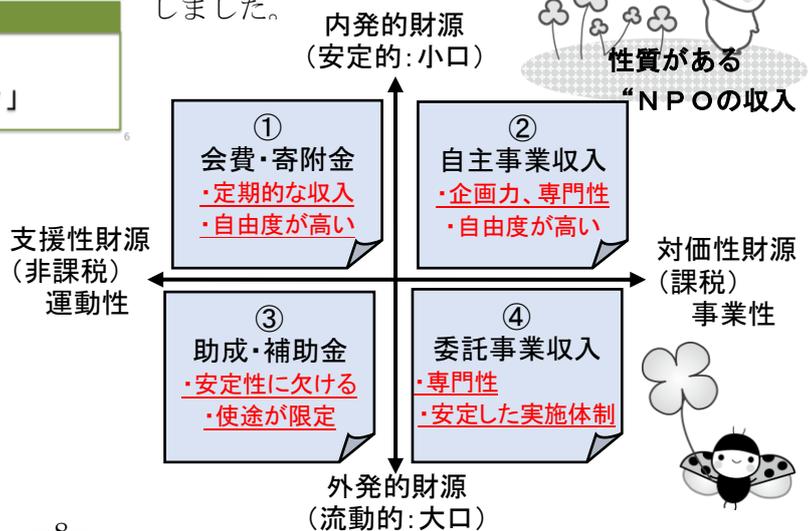


企画の基本構成！6W3H

ニーズの2W1H なぜ？(Why?)「なぜ、何のために行うの？」 誰のために？(for Whom?)「どんな人に対して行うの？」 どの程度まで(How Far?)「規模は？どんな状態になっていたい？」
手法・場(プロセス)の3W1H 何を？(What?)「どのようなことを行うの？」 どのように？(How?)「スケジュールは？どんな手順で？」 いつ？(When?)「いつ、どの程度、どれだけの時間をかける？」 どこで？(Where?)「どこで行うの？」
資源の1W1H 誰が？(Who?)「どんな体制で行うの？」 いくらで？(How much?)「どれだけの経費を使って？」

参加者はワークシートを使って、企画書づくりにチャレンジしました。「6W3H」という要素を具体的に明らかにしながら組み立てていく作業です。「会員を増やしたい」「リーダーを育成したい」といった団体の内部的な課題に悩む参加者も…。いずれにしても、「目的」「目標」を明確に設定して、自他での理解を促すステップが「企画書」づくりであることを確認しました。

「社会資源」と言われる周辺にあって活かせる資源をかき集めていくこと！「企画」を画にかいた餅に終わらせないために必要なことです。外部組織との連携や協働の可能性を探る段階であることを確認しました。そして、裏付けとなる財源を考える「予算書」づくりも大切です。講座ではNPOの財源を改めて整理しました。





◀ 最後に参加者全員が「プレゼンテーション」にチャレンジしました。

補助金・助成金の審査を想定し、4分間で伝えたい事をまとめました。「聞き取りやすい声だった」「聴き手の方に身体を向けた方がいい」etc互いに助言し合う有意義な時間となりました。



課題を整理し、解決のプロセスを考えながら書き上げた「企画書」。内容を相手に伝える「プレゼンテーション」について学びました。「プレゼンテーション」とは相手に内容を伝える作業のことですが、その結果、相手が“理解”し、そして“納得”して、“行動”してもらうことが成果です。講座ではまず「プレゼンテーション」の基本をおさえ、各団体が伝えたい相手をイメージしながら、ワークシートに伝えるポイントを整理しました。



“企画書”に落とし込んだ活動を行政や財団にプレゼンテーションする”
“新規事業の説明をして企業の協力をお願いします”。

活動が広がれば広がるほど、プレゼンテーションの機会は増えていきます。

「費用が足りないから支援してください」という説明だけでは理解は得られません。“今治市にはこんな課題があって、私たちの活動でこんなにまちは変わります”“支援を通して、御社にこんなメリットがあります”。情熱と合わせ、先の見通しや相手側の視点等をきちんと説明することが大切です。プレゼンテーションは相手への「プレゼント」です。

知ってる?!

人は情報を何で感じるか!

人は「視覚」から87%の情報を得ています。また1分間に伝えることができる情報量は「読む1000文字」「話す300文字」に対して、「見る2000文字」。ビジュアルプレゼンテーションが効果的な所以です。

■ビジュアルプレゼンテーション■

* 分かりやすい

相手の知識レベルの影響を軽減できる

* 印象の深さ

相手の記憶に残りやすい

* 伝達の速さ

相手に多くの情報を伝えられる

伝える中身(企画の内容)が重要なことはもちろんですが、伝える方法が相手の共感を得るポイントとなることを学びました。

(参加者の感想)

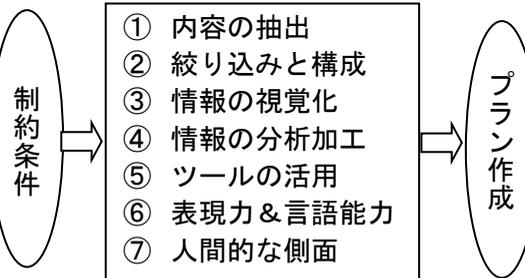
○自分たちのやりたいことだけでなく、相手の立場にたって事業を考えることが大切だと思った。

○少し大きな助成金にチャレンジしたいと思う。

学んだことをいかしたい。

○いい機会になった。活動にいかしたい。

プレゼンテーションの構造



ビジュアルツールとして一般的になった「パワーポイント」。上手く活用できれば、説得力のある提案ができるはず。講座では「パワーポイント」を使ってのプレゼン資料の完成を目指しました。「パワーポイント」を初めて使う参加者が多い中、まずは「表紙」作り。ここで色彩の原則、そして全体面積の使い方をイメージです。その後、プランの基本構成となる「序論→本論→まとめ」を説明するシートを作成していきました。「説明内容は“腹八分目”」。そんな助言を受けながら、パソコンに向き合います。写真を配置したり、イラストを使ったり…。個性あるシートが出来上がっていきました。



2日間の講座を通して、企画書、そしてプレゼンテーションシートが完成しました。皆さんの今後の活動に期待します。

「伝わる」 チラシデザインのコツ



● 広報の役割

「広報」(情報発信)が重要な時代に!

- ・スマホの出現＝個人が発信できるメディアを獲得
- ・コミュニティの多様化＝興味・関心で集まる集団



砂の数ほどの情報が世間に溢れている現代。「スマホ」を通じて、急速に発達したSNS等の情報拡散力を目の当たりにしている人も多いはず…。一方、正しい情報を掴んだり、自分に必要な情報を拾い上げたり、情報のキャッチに困っているのが実情です。ここから見えてくるのは…。



▲やってみよう！行ってみたい！
人が新しいことを始めるキッカケづくり。
情報の伝達だけでなく、心が通い合っ
てこそという言葉に納得。

「広報」はコミュニケーション!

- ・広報＝Public(公衆) Relations(関係構築)
- ・広報＝広報(広く報せる) & 広聴(広く聴く)



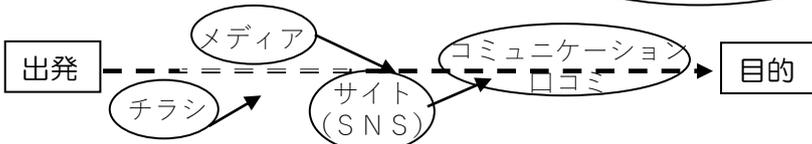
情報を伝える活動を「広報」と捉えがち…。伝えた情報により、「協力者が増えた」「参加者が集まった」というように、人の行動を変えることが「広報」のゴールです。情報を伝えたい相手(＝ステークホルダー)を把握し、相手の声を聴くプロセスも広報！あなたの広報の先にいる「人」とのよりよい信頼関係づくりの活動です。

● 「行動変容」が「広報」の目的

情報の旅をコーディネート

- ・人は無意識で生活している
- ・ほとんどのことに無関心である

行動を変えてもらうには…
相手のニーズ・メリットを想像
「自分だったら
自分ゴト化」



「その「チラシ」で情報が一人歩きますか？」

“チラシ”完成がゴールではありません。伝えたいターゲットが存在する場所・伝達方法を検討し、情報を投下。最後は口コミがやはり強いです。日々、人脈を広げて関係性を深めておくことが大切です。

「チラシづくり」ワークショップ

「防災意識を高めるイベント」の企画者となり、チラシづくりにチャレンジです。個人&グループ作業を交え、4種のチラシが完成!

チラシづくりへのプロセス

- 「誰に」「目的は」「何を」「ゴールは」
- チラシのコンセプトは
- チラシのポイント
- 対象者への伝達方法

参加者の声

- ・作って終わりになりがち。見直したい。
- ・手書きの温かみをいかしていきたい。
- ・団体に共有したい。
- ・コンセプトが大事だと納得した。



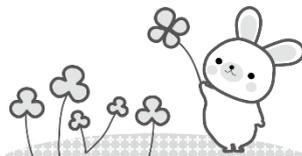
▲目指すゴールは同じでも、アプローチ(企画の中身)は多様。ターゲットにより、キャッチコピーも工夫すべきです。改めて「企画」コンセプトが重要なことも確認。

- ★谷氏の添削に一同納得★
- ・コンセプトが命
- ・タイトルをゴシックで大きく
- ・テキストボックスを上手に使って
- ・チラシが届くまでが勝負 etc

デザイン・レイアウト等のテクニックに走りがちな広報ですが、見た目がよくても、人に届かなければ意味がありません。広報の先にあるには“人”。そんな原点に立ち返らせてくれた講座でした。シミュレーションで作製したチラシづくりを是非、もう一度、各団体で実践し、実務にいかしてほしいと願います。

ボランティア・NPO 交流会 パワーを生み出す人の関わり方

子育て、防災、まちづくり etc よりよいまちづくりを目指す市民主体の活動があります。多様な担い手が活躍する中、情報交換の機会は希薄。まずは人々がつながりあい、顔が見える関係を構築したい！そんな思いで開催した交流会のレポートです。

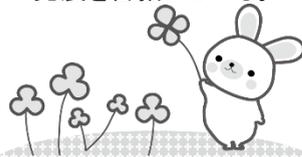


今治おやこ劇場

事例発表者

来栖裕美子理事長
八塚伊代里副理事長
越智広美事務局長

優れた舞台芸術を鑑賞し、子ども達が豊かに成長することを目指し活動する団体。芸術活動を通して、子ども達の豊かな成長、児童文化の発展を目指している。

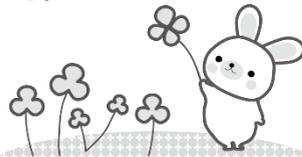


今治市防災士会

事例発表者

砂田ひとみ企画部長

地域防災力の核になることが期待される防災士。有資格者の有志が会員として参加する受け皿として、会を組織。会員の学びの提供、つながりづくり等の活動を進めている。



今治タオル体操愛好会

事例発表者

渡辺小百合会長

女性目線のまちづくりとしてスタート。地場産品のタオルを使った体操を考案。「タオル1本で健康づくり」を合言葉に多様な年齢層の市民に親んでもらっている。

「あなたの好きにしている」前会長の言葉。
“任せる”ことが世代交代



★多様な運営スタイル

“運営委員会” “GKT=中高生の自主企画”

キャッチフレーズは「そうだ！おやこ劇場に行こう！」プロの舞台鑑賞は“心”育て！アウトドア&交流会等のプログラムづくりを、会員の子ども達に任せる等、主体的関わりが魅力。



★生活目線のアイデア企画

ユニフォームは赤いタオルのジャケット！今でこそ、タオル製品は多彩だが、発足当初、「タオルの洋服」の提案は斬新だったと振り返る。気づきを形にしていく推進力は、そのまま“人”を巻き込む力だ。

「やりたい」人ではなく「推薦される」人がリーダー では!!

★月会費 1,000 円で運営

平成元年に 300 名いた会員は右肩下がりで減少。現在 90 名。「100 名を切ったらやめよう」と思ったという役員の声は重い。

会員制度が時代に合わない
親子関係変化 異年齢交流の機会
意義を諦めない 会員だった子どもの声
育ちを繋ぎたい



★年会費 1,000 円で運営

今治市に 746 名いる防災士の内、189 名が会員として参加。資格取得後の受け皿だが、その存在、意義の浸透が課題。行政との連携に期待。

島しょ部の会員への手当て
試行錯誤のしくみづくり

★「地域」デビューの場

先進地視察、定例研修会等、資格取得後の学び合い、地域を超えたつながり合いに取り組む自主組織の存在。個々の課題やアイデアを交換したり、最新の情報・スキルを得たりできる場で、「もしも」の時に防災士の資格をいかす取り組みとして必須だ。行政との連携個人情報ネックに NPOとしての自立性担保

★年会費 2,000 円で運営

活動のベース「出前体操」は年間 150 回。5 倍に増えた。リーダーを育てないと、現場が回らない。会員の「できること」を増やす、そして「任す」ことが秘訣か!!



市民活動を支える原動力は“人”。自発的に動活動家の多くは、「こうすればもっと暮らしやすくなる」「困っている人をほっとおけない」、そんな思いで動き始めています。一人ではできないことも、多くの“人”が集まると大きな取り組みを成し遂げることができます。気づくのは、そんな活動を拓き、続けるバロメーターである“人”が育っていないこと。異口同音に聞こえてくる現場の共有の悩みです。



交流会では、今治市内で活動する3つの団体が現状を報告。互いに悩みを打ち明け、団体運営に向けての工夫を意見交換しました。

●会員になつてもらう●

ここが第一歩。一人でも多くの人に会員として参加いただくことが、団体の活動の発展と大きく結びついています。「好き」「楽しい」との思いでメンバーになる会員同士の“つながり”が魅力です。

会員獲得の工夫①活動の価値を伝える！

情報に溢れ、余暇の過ごし方も多彩になる現代。手軽で気楽な時間の過ごし方に流されがち。市民活動は対極にある活動と言っても過言ではありません。効率化が求められる今だからこそ、非効率でも人とのつながりを実感できる現場の価値を伝えたいものです。

会員獲得の工夫②フラットでオープンな参加の機会をつくる！

いつでも・どこでも・だれでも関われる！それが市民活動の魅力です。習い事で忙しい子ども達。介護や子育てに時間をとられがちな女性 etc それでも「やりたい」と思ったその瞬間、思いをくみとることが必要です。多様な状況を踏まえ、人が関われるしくみ、それを受け入れるマネジメントを構築したいものです。



●会員を育てる●

今、関わっている“人”を大切にすること。会員減少に悩む団体運営に特効薬はありませんが、“人”が関わり続けることができる組織には底力があります。

人材育成の工夫①満足度を高める

身近な課題に気づき、動いてみる！苦労もありますが、何かを生み出す経験は魅力です。会員には当事者として、成果を生み出す経験をつくるのが大切です。「楽しいな」「うれしいな」と会員自らが感じたことをアイデアとして、団体で実施するチャンス！それが団体のオリジナリティにもつながります。

人材育成の工夫②リーダーを育てる

会員として関わる人は、団体に何を求めているのでしょうか。会員の立場にたって知りたい情報や参加の機会をつくるのが大切です。リーダーは個別にケアし、「任せる」こと、「デビューの機会をつくる」ことが大切。個々の人が伸びていけば、結果、チームである団体は育ちます。世代交代の秘訣にも。



●会員が会員を呼ぶ●

会報、チラシやポスター、WEBサイトなど、活動の広報の手段はいろいろあります。目的を伝え、活動を知ってもらうことの難しさに直面している団体は多いもの。現場で起こっていることを発信することを基本に、他団体やメディアも活用したいものです。

情報発信の工夫 会員全員が広報マン

「連携先のWEBサイトが発信源」、「メディアで取り上げられて…」、目の前の活動に追われ、自らが発信できていないところを、外部のサポートに助けられたという事例も…。動いていれば、必要な時に必要な支援がやってくるものかもしれません。動くのは“人”。“人”の動きを注目にさせる力を持ちたいものです。

参加者の声



- 同様な会員制度で運営。悩みを共有できた。
- 会員減少の中、プログラム等を工夫していて、参考になった。
- 「今、いる会員を大切にしたい」という言葉は大切だと思った。
今、関わっている人が、関わり甲斐を感じられる組織にしたい。
- 自治会の加入率が下がる等、人の関わり方の変化を感じた。
- とても有意義だった。少人数で聞くのはもったいない。
- 2回目、3回目のこうした交流会をして欲しい。

“人”をテーマに事例を共有し、団体運営のヒントを持ち帰っていただくことができました。集まったメンバーは、団体のコアメンバー。日々、現場を動かしながら、支援者を集める努力をしています。時には自らが目的を見失ったり、疲れたり…。責任や仕事が集中し、「燃え尽き」ては意味がありません。団体に関わり始めた関心や意欲を大事にし、ライフワークの充実につないで欲しいと願います。

(5) ボランティアコーディネート業務

内容	ボランティアの応援を求めている方とボランティア活動をしたい方をつなぎ、双方が対等な立場で共に問題解決を図った。
対象	ボランティアの応援を求めている組織・個人 ボランティア活動をしたい方
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・今治市社会福祉協議会と連携をとりながらすすめる。 ・情報提供を求めている人には、機関紙「得夢サラダ」やホームページなどを利用して活動を紹介する。
結果 課題	年間 97 件のコーディネーションを行った。ボランティア活動の経験がない方には来館、聞き取り、活動の斡旋を丁寧に行った。定年退職後の自由な時間を活用し、ボランティア活動をはじめたい人に主体的・自発的に取り組んでいただける活動を発掘し、紹介した。夏休み、春休みは学生のボランティア活動希望者の相談が多く、多様な分野・テーマの活動を紹介し、受給調整を行った。一人ひとりがまちを構成する重要な一員であることを自覚できる活動を調整する大切さを感じた。

(6) 相談業務

内容	団体設立や運営などのアドバイスを、電話・メール・来所にて日常的に受け付け、対応した。4年目となる支所単位での「出張相談会」は、相談件数は4件と少ないながら、今治市陸地部にある本センターには足を運びにくい島嶼部を中心に好評だったことを受け、今年度も島嶼部4島・6か所で開催した。
対象	市民団体・行政職員
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動団体が自らの課題を整理し、その解決策を発見することを支援する。 ・職員で対応できない専門的な質問については、地域資源（地域の専門家、他の支援センターなど様々なテーマに応えられる人、組織）を活用し、支援を行う。 ・初歩的な質問については、フロアーに掲示し、来館者に視覚的に知らせる。
結果 課題	<p>団体設立や運営など、144件の相談に電話・メール・来所にて対応した。ボランティア団体を立ち上げたい個人、グループからNPO法人設立・運営相談が寄せられるほか、広報相談、ネットワーク構築相談など多岐にわたる相談が寄せられた。相談に応えるだけでなく、相談者の次のニーズをコミュニケーションの中で引き出し、対応するよう配慮した。</p> <p>■使用者の声■</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても親切に対応してくれる。 ・優しく、丁寧で助かる。 ・休みの日や夜間なども相談対応いただけで助かる。 <p>■出張相談会■</p> <p>広域合併した今治市において、周辺地域にお住まいの方にも、地域の人々の支え合い活動、社会サービスの提供などについて、気軽に相談する機会をつくることを目的に開催。昨年に続き、島嶼部に限定して自発的な市民活動の促進、担い手育成を目指し、開催した。空き施設の活用、賑わい創出をテーマにした相談が寄せられ、仲間を募ってのグループづくり、プログラム立案の助言などを行うことができた。出張相談の機会は各エリア1回のため、その後は電話やメールなどで相談を受けたり、センターに足を運んでいただいたりして継続的に情報提供することができた。</p>

年に1回の出張相談日について、市民への周知が行き届いていないこともあり、相談件数が伸びていない。島しょ部の地域住民へ届く有効な広報の手段を検討し、出張相談会の実施を広く知っていただくよう尽力したい。

宮窪会場	6月19日(火)	10:00~12:00	1件
吉海会場	6月19日(火)	13:00~15:00	0件
伯方会場	6月21日(木)	10:00~12:00	0件
大三島会場	6月26日(火)	10:00~12:00	0件
上浦会場	6月26日(火)	13:30~15:30	1件
関前会場	6月28日(木)	10:00~12:00	1件

■出張啓発ブースの運営■

不特定多数の市民が訪れるイベント等の会場において、市民活動の啓発ブースを設け、子ども達に市民活動への理解を促したり、活動希望者・活動者への助言を行ったりした。今治市民の祭り「おんまく」子どものヒロバ



今治明德短大園祭



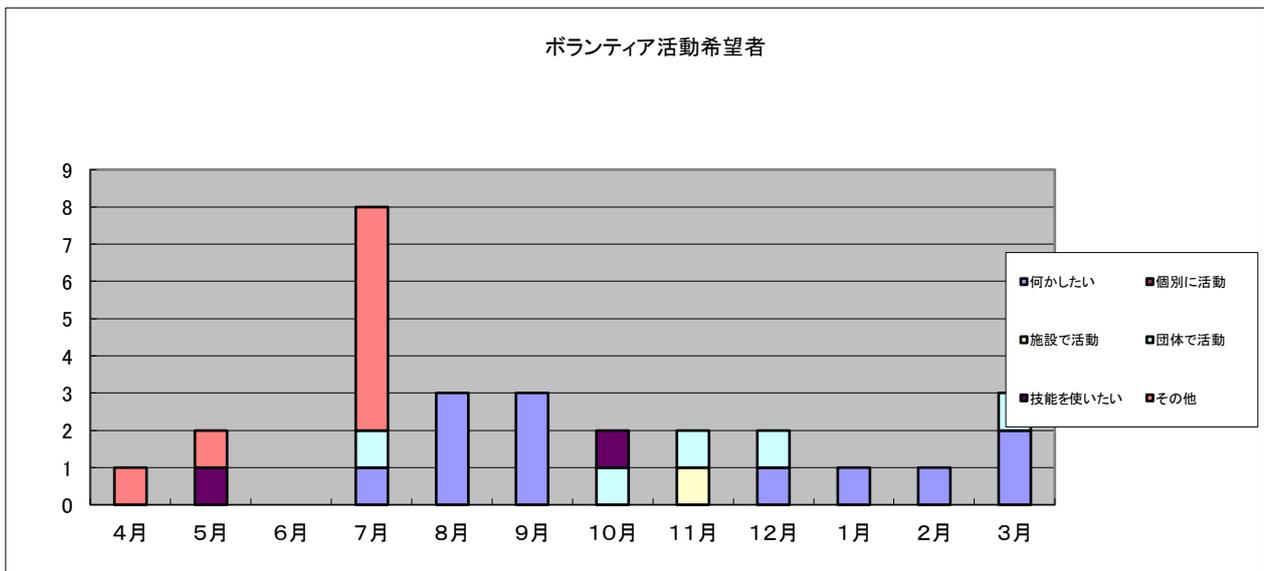
(7) まちづくりサポーター業務

内容	仕事や趣味などを通じて得た知識、経験や技術を、まちづくりのための様々な場所や場面にいかしていただけるよう斡旋・紹介を行う。
対象	ボランティアの応援を求めている組織・個人 ボランティア活動をしたい方
手法	・まちづくりサポーターとして活動できる組織・個人を登録し、HPで紹介する。 ・団体が内部の人材では解決できないことがある場合、斡旋する。
結果 課題	ボランティア活動希望者が相談に訪れた際には「まちづくりサポーター」制度の照会を行う等したが、新たな登録はなかった。個人が持つ専門知識、技術・能力、経験、人脈等をいかした登録、そのスキル等を発揮できる場とのコーディネートを行う業務として、制度の運用の見直しを検討したい。

コーディネーター状況詳細

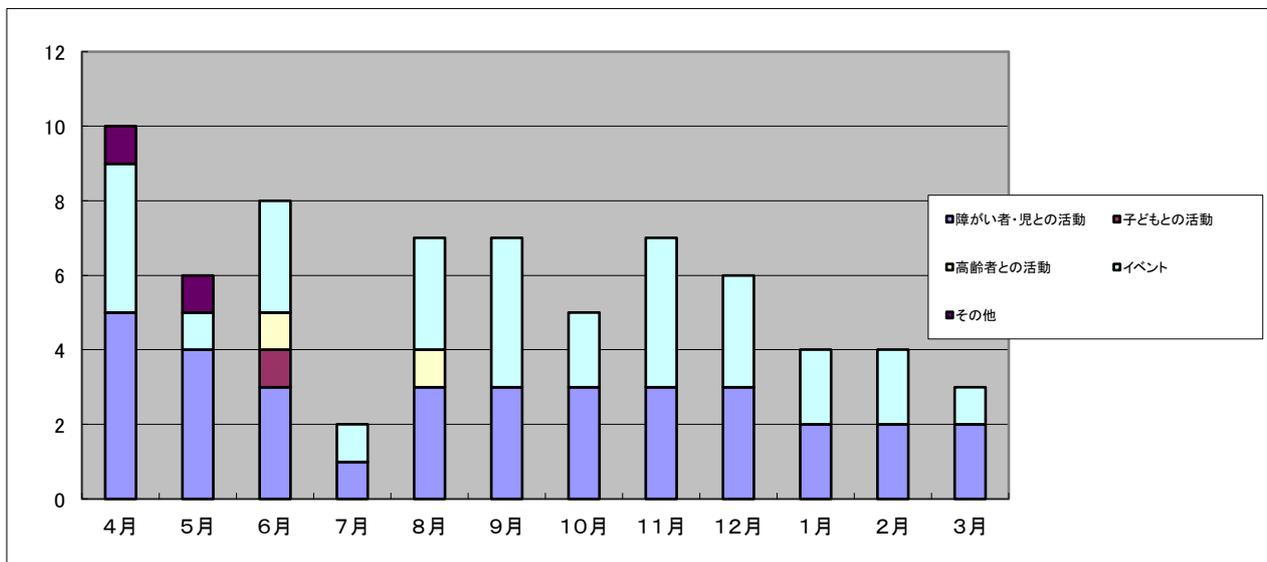
①ボランティア活動希望者

ニーズ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
何かしたい	0	0	0	1	3	3	0	0	1	1	1	2	12
個別に活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設で活動	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
団体で活動	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	1	5
技能を使いたい	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
その他	1	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	8
合計	1	2	0	8	3	3	2	2	2	1	1	3	28



②ボランティアを受け入れたい組織・個人

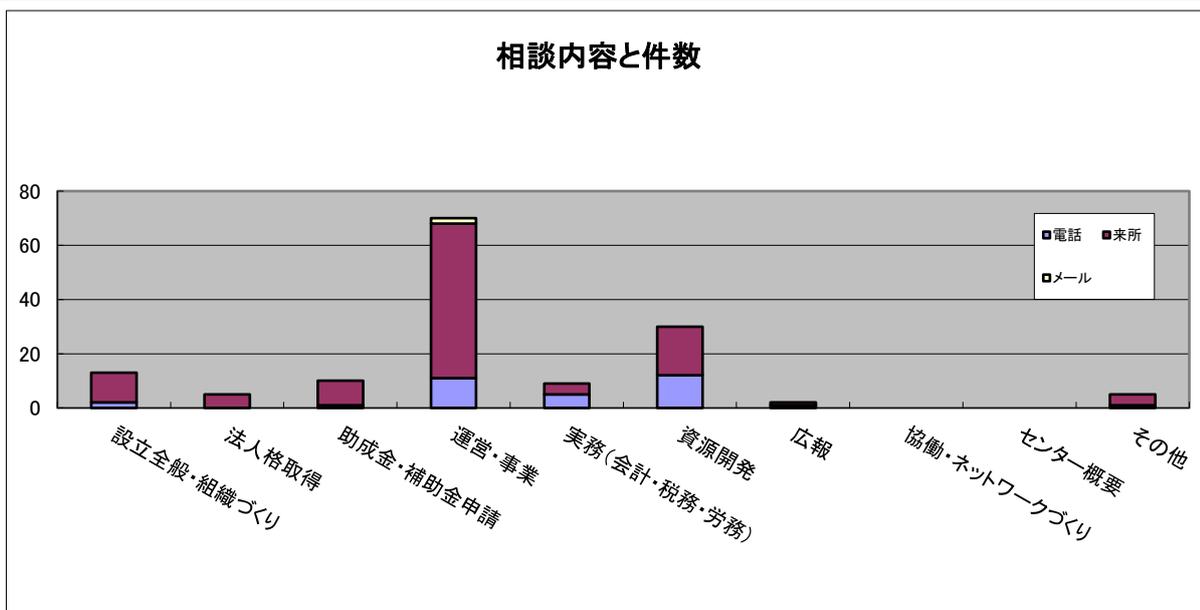
ニーズ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
障がい者・児との活動	5	4	3	1	3	3	3	3	3	2	2	2	34
子どもとの活動	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
高齢者との活動	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
イベント	4	1	3	1	3	4	2	4	3	2	2	1	30
その他	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	10	6	8	2	7	7	5	7	6	4	4	3	69



相談状況詳細

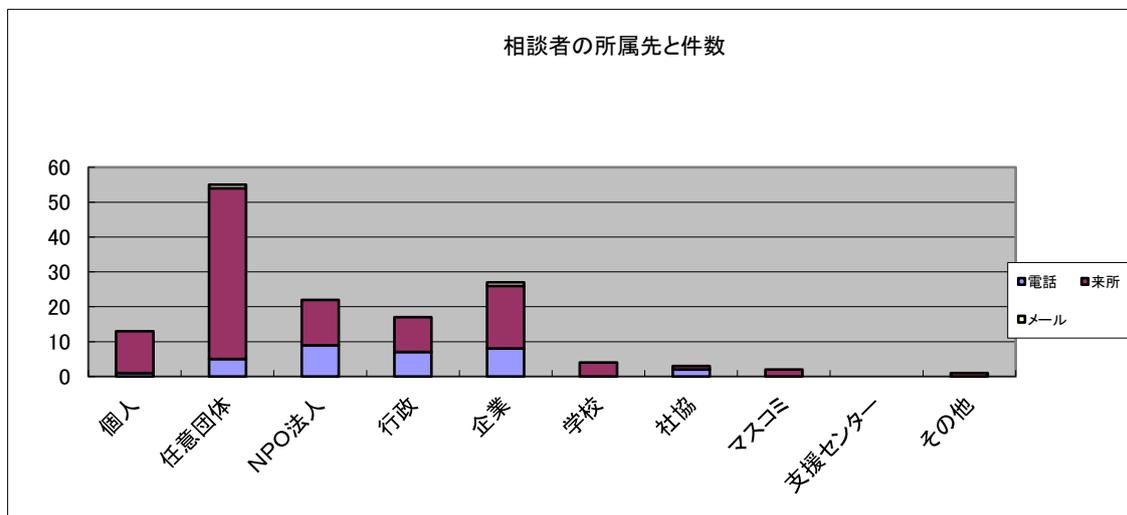
【相談内容と件数】

	電話	来所	メール	合計
設立全般・組織づくり	2	11	0	13
法人格取得	0	5	0	5
助成金・補助金申請	1	9	0	10
運営・事業	11	57	2	70
実務(会計・税務・労務)	5	4	0	9
資源開発	12	18	0	30
広報	1	1	0	2
協働・ネットワークづくり	0	0	0	0
センター概要	0	0	0	0
その他	1	4	0	5
合計	33	109	2	144



【相談者の所属先と件数】

	電話	来所	メール	合計
個人	1	12	0	13
任意団体	5	49	1	55
NPO法人	9	13	0	22
行政	7	10	0	17
企業	8	18	1	27
学校	0	4	0	4
社協	2	1	0	3
マスコミ	0	2	0	2
支援センター	0	0	0	0
その他	0	1	0	1
合計	32	110	2	144



2. その他の事業

(1) 情報提供事業

①トークカフェ in ラヂオバリバリ

期間：平成30年4月～平成31年3月

協力：エフエムラヂオバリバリ

地域の情報を広く社会へ伝える手段であるコミュニティ放送を媒体に市民活動団体紹介、ボランティア情報などを毎週1回に発信した。

今年度は、草の根活動の動きを大きなチカラにしていくために、ラジオを通して人と人の交流を深める趣旨で展開した。(今治市民活動センター管理運営事業自主企画事業)様々な分野の活動規模も多様な団体が、ラジオというメディアを通して、広報活動を展開する場となった。日々の暮らしの中で感じる些細な気づきをもとに、身近な仲間たちの小さなグループからはじまる様子が伝えられた点、少人数ながら思いや責任感や役割を分担し、地域に根ざして活動する様子などは、活動未経験者へ大きなメッセージとなった。一方、こうした活動が事業を継続したり、拡充したりする力が不十分な点も見え、今後、一つ一つの活動が成熟した市民社会実現を目指す大きな広がりになるよう、人的交流や相互連携を生み出していくしくみの構築を感じた。今後は、事例等の共有をより有意義に進められたり、活動に必要なしくみを学んだりできるような展開を考えたい。

②ホームページの運営

期間：平成30年4月～平成31年3月

センター事業の紹介と報告、ボランティア情報などをホームページに随時掲載した。広く情報を受発信することにより、ボランティア活動の仲介コーディネート業務にも役立った。また、「今治市民活動センター」事業である「まちづくりサポーター」の制度紹介のページを設けた。サービスを提供したい個人・団体の紹介を発信した。NPO等、ボランティアの応援を求める組織のニーズ紹介等を充実させることが課題である。

(2) 審議会・委員会への参加事業

行政が設置する委員会・審議会へ参加しました。

期間	名称(主催団体)/参加の立場	テーマ・目的
平成30年 5月28日 7月25日 11月13日	今治市ふるさと共創・共生ビジョン懇談会	今治市人口ビジョンおよび今治市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に係る意見集約、提言。
平成30年11月13日 平成31年2月7日	中間支援組織ネットワーク会議(愛媛県)	多様な主体による協働環境整備を目指し、県内の中間支援組織や助成団体の情報共有のために開催。

(3) 講師派遣事業

依頼に基づき、講師を派遣しました。

日時	名称（主催団体）/参加の立場	テーマ・目的
平成 30 年 12 月 21 日	今治明德短期大学	知の拠点推進事業の一環で地域でのボランティア活動の紹介を行う授業を担当。
平成 31 年 3 月 15 日	今治明德短期大学	知の拠点推進事業の評価会議への参加。地域活動への学生参加の意義を検討。

(4) その他の事業

西日本豪雨の被害を受け、ボランティアの活動拠点となる「今治市災害ボランティアセンター」が開設された。被災状況の把握を経て、ボランティア活動に必要な資材、ボランティアの募集等を中心に、今治市社会福祉協議会や今治市と連携して活動を行った。

【今治市災害ボランティアセンターの機能】

設置日：平成 30 年 7 月 9 日（月）

活動日：平成 30 年 7 月 9 日（月）～平成 30 年 7 月 31 日（火）

活動数：延べ 990 人

活動エリア：上浦町（井口）、伯方町（有津、伊方）、波方町（森上）他



当会は構成団体の一つとして、コア会議、ボランティアや資材の需給調整を行った。

構成団体：今治市、NPO 今治センター、今治青年会議所、今治市社会福祉協議会

コア会議：7 月 11 日（水）～7 月 22 日（日）・7 月 30 日（月）参加。

参加者：山本優子

※ボランティア派遣の窓口業務を含む



【今治市災害ボランティアセンター 振り返り】

「災害ボランティアセンター」の活動を振り返るとともに、運営面の課題等を検証し、この経験を平時からの取り組みや次の災害時に生かしていくため、連携会議が開催され、参加した。

日時 平成31年3月22日（金）14:00～16:00

場所 今治市総合福祉センター 2階 研修室兼視聴覚室

（４）その他の事業②

今治市民活動センターは「別宮小学校」の校区内に立地している。別宮小学校の福祉学習の中でまちを探検する授業があり、協力施設となった。小学校6年生約40名がセンターに来館。屋外スペースにあるスロープ、共用の障がい者用トイレ等、多様な立場の人が利用できる施設の工夫を学ぶ支援を行った。

受入日：平成30年11月15日（木）10:00～12:00

全体テーマ「みんなにやさしいまち～じぶんのまち“別宮”“今治”をよくするために～」

上記テーマを設定し、車いす体験をしながら、いろいろな立場の人が安全・安心に暮らせるまちについて考えていた。当センターを初めて訪れた子ども達がほとんどで、当センターの設置目的、利用している市民活動団体への理解をする貴重な機会となった。

利用目的の説明



屋外スペース（スロープ）の確認



屋内のマークや設備の確認



※定款上、「その他の事業」は実施しなかった。

3. 会議に関する事項について

(1) 総会

①第17回通常総会

日時：平成30年4月23日（月）19：30～

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：2017年度事業報告・活動決算報告の件
定款変更の件

(2) 理事会

①2018年度第1回理事会

日時：平成30年4月23日（月）19：00～

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：2018年度事業計画・活動予算の件
役員・有給役員の件
総会に付すべき事項の件

②2018年度第2回理事会

日時：平成30年8月1日（水）12：30～

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：今治市民活動センター事業「協働の担い手講座」の件
NPO啓発事業の件

③2018年度第3回理事会

日時：平成30年10月11日（木）12：30～

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：今治市民活動センター事業「交流会」の件
NPO啓発事業の件

④2018年度第4回理事会

日時：平成30年12月21日（金）19：00～

会場：今治市内 飲食店

議題：今治市民活動センター事業「協働の担い手講座」の件
今治市内の公共施設の評価の状況の件

⑤2018年度第5回理事会

日時：平成31年2月13日（水）12：30～

会場：今治市民活動センター 中会議室1

議題：2018年度事業計画・活動予算
2019年度総会報告事項